

平成30年 1 月 17日	
資 料 提 供	
担 当 課	県立博物館 学芸課
担 当 者	主任学芸員 前田正明
電話番号	073-436-8684

小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅣ』の配布及び、現地学習会「歴史から学ぶ防災2017」の開催について

和歌山県立博物館では、平成29年度文化芸術振興費補助金(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)を得て、文化遺産課、県立文書館、県内外の歴史研究者と協力しながら、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業(全体事業名「地域とともに文化遺産の継承を担う新たな博物館づくり事業」)に取り組んできました(別紙1)。

このたび、本事業の調査成果を多くの方々に知っていただくため、下記のとおり小冊子を作成し、配布するとともに、新宮市と北山村とで現地学習会を行うことになりました。

- ①調査成果の一部をわかりやすく解説した、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅣ』(A5判、21,000部)を作成しました。調査対象地域である2市村(新宮市、北山村)の住民の方に対して、全戸配布(無料)します。また、当館に来館された方で、希望される方にも無料で配布します。なお、小冊子の内容は、和歌山県立博物館のホームページからダウンロードすることもできます。
- ②平成30年2月24日(土)・25日(日)に、調査成果の一部を報告する現地学習会「歴史から学ぶ防災2017」を新宮市と北山村とで開催します。

【添付資料】

- 別紙1(『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要)
- ①小冊子(『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅣ -命と文化遺産とを守るために-【新宮市・北山村】』)
 - ②チラシ(現地学習会「歴史から学ぶ防災2017 -命と文化遺産とを守る-」)

『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要

[これまでの取り組み]

和歌山県立博物館では、平成23年9月の紀伊半島大水害の教訓から、平成24年春に災害時に文化財(未指定も含む)のレスキュー活動の必要性を、県民の皆さんに伝える特別展「災害と文化財ー歴史を語る文化財の保全ー」を開催しました。その後も、「災害の記憶」を伝える記念碑や古文書の調査を行い、その成果を地域に還元するため、平成25年2月に田辺市で、フォーラム「来たるべき“南海大震災”に備えてー過去からの警鐘に学ぶー」を開催しました。平成26年度からは国庫補助を得て、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』を作成し、県内各地で現地学習会「歴史から学ぶ防災」を開催しています。

[本事業での取り組み]

今後も、これから起こりうるであろう災害に対して、自らの生命と財産(文化遺産を含む)を守っていく活動を、日ごろから継続して行っていく必要があると考えています。

平成29年度も、昨年と同様に、これまでの県立博物館の活動に加え、和歌山県立文書館が平成9年度～同17年度まで行った民間所在資料保存状況調査の成果、和歌山県教育庁文化遺産課が平成24年度末から同25年度にかけて行った津波被害が想定される地域を対象とした文化財緊急調査の成果も活用し、県立博物館、文化遺産課、県立文書館が連携し、県内外の歴史研究者の協力も得ながら本事業を行ってきました。

和歌山県域において、地震津波被害や洪水被害が想定される地域が広範囲に及んでいることを踏まえ、今年度は新宮市、北山村の津波浸水想定地域、洪水想定地域を調査対象地域とし、新宮市・北山村の各教育委員会などの協力を得て、「災害の記憶」の発掘と対象地域に残る文化遺産の所在確認を行いました。なお、平成28年度は印南町・由良町、平成27年度はすさみ町・串本町・太地町、平成26年度は那智勝浦町・御坊市・美浜町・日高川町を対象に調査を行っています。

本事業の調査成果を地域住民の方々に還元するため、啓発用小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるIV』を作成し、無料で配布するとともに、現地学習会「歴史から学ぶ防災2017」を開催します。

[本事業の調査参加者](五十音順)

木村修二	神戸大学大学院人文学研究科 特命講師
鈴木裕範	和歌山大学南紀熊野サテライト 客員教授
砂川佳子	歴史資料保全ネット・わかやま会員
藤 隆宏	和歌山県立文書館 主査
浜田拓志	歴史資料保全ネット・わかやま会員(奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 客員研究員)
藤本清二郎	歴史資料保全ネット・わかやま世話人(和歌山大学名誉教授)
前田正明	和歌山県立博物館 主任学芸員
松下正和	神戸大学地域連携推進室 特命准教授
三本周作	和歌山県教育庁文化遺産課 副主査
吉村旭輝	和歌山大学紀州経済史文化史研究所 特任准教授(学芸員)

*この事業は、平成29年度文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」で行っている事業(全体事業名：地域とともに文化遺産の継承を担う新たな博物館づくり事業)のうちの一つの事業です。

先人たちが残してくれた

「災害の記憶」を未来に伝えるIV

－命と文化遺産とを守るために－
【新宮市・北山村】



和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会

歴史から学ぶ防災2017

—命と文化遺産とを守る—



熊野奇勝図帖(和歌山県立博物館蔵)

(熊野川河口付近)

平成30年
2月24日[土]

東牟婁総合庁舎 3階大会議室

新宮市緑ヶ丘2-4-8 0735-22-8551

13時30分～15時30分 報告

15時40分～ 地域防災を考えるワークショップ(希望者)



平成30年
2月25日[日]



熊野奇勝図帖(和歌山県立博物館蔵)

(熊野川と北山川との合流付近)

北山村村民会館

北山村大字大沼66 0735-49-2115

13時30分～15時30分 報告

15時40分～ 地域防災を考えるワークショップ(希望者)



【入場無料 申し込み不要】 【詳しい内容は裏面をご覧ください】

お問い合わせ 和歌山県立博物館 073-436-8670



「減災カフェ」の様子

主催：和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会、和歌山県立博物館、新宮市、新宮市教育委員会、北山村、北山村教育委員会
協力：和歌山県教育庁文化遺産課、和歌山県立文書館、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山大学災害科学教育研究センター



この事業は、『平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業』によるものです。

2月24日(土) 13時30分～15時30分 東牟婁総合庁舎 3階大会議室 [報告(各20分)]

- 1 「宝永地震津波と新宮」
■ 和歌山県立博物館 主任学芸員 前田正明
- 2 「山門部材に記された安政地震津波の記憶」
■ 神戸大学大学院人文学研究科 特命講師 木村修二
- 3 「石碑に刻まれた過去の土砂災害」
■ 和歌山県立文書館 主査 藤 隆宏
- 4 「熊野川流域の自主水防家屋『上がり家』とその今日的意味」
■ 和歌山大学南紀熊野サテライト 客員教授 鈴木裕範
- 5 「地域の災害史の共有により減災をめざす」
■ 減災カフェ 主宰 上野山巳喜彦

2月25日(日) 13時30分～15時30分 北山村村民会館 [報告(各20分)]

- 1 「北山村とその周辺の土砂災害の危険性」
■ 和歌山大学災害科学教育研究センター 客員教授 後 誠介
- 2 「火災を免れた仏像」
■ 和歌山県教育庁文化遺産課 副主査 三本周作
- 3 「北山村周辺地域の秋祭りとはどぶろくの醸造 —その特色と技法の継承をめぐる—」
■ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所 特任准教授 吉村旭輝
- 4 「北山村の記録と歴史災害」
■ 歴史資料保全ネット・わかやま 会員 砂川佳子
- 5 「誰にでもできる水濡れ資料の応急処置法」
■ 神戸大学地域連携推進室 特命准教授 松下正和

報告のあと、参加者との質疑応答をおこないます。報告終了後、希望者のみで地域防災を考えるワークショップをおこないます。

入場無料、申し込み不要

和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議 公開研修会

■テーマ「各地でおこなわれている文化財を守る取り組み」

2月15日(木) 13時～15時 新宮市福祉センター 1階集会室(新宮市野田1-1, 0735-21-2760)

間刈創(三重県総合博物館) 「三重県博物館協会等による災害に対する取り組みについて」
松下正和(神戸大学) 「水損資料応急処置ワークショップ～「史料の救命士」ボランティアへのお誘い」

3月14日(水) 13時～15時 和歌山市立博物館 2階講義室(和歌山市湊本町3-2, 073-423-0003)

前田正明(和歌山県立博物館)・御船達雄(和歌山県教育庁文化遺産課)・藤本真名美(和歌山県立近代美術館)
「和歌山市寂光院の文化財緊急調査について」
岸本覚(鳥取大学) 「鳥取県中部地震の現状と被災史料への取り組み —鳥取県西部地震との比較を通じて—」



●コーナー展示「先人たちが残してくれた『災害の記憶』II」

1月27日(土)～3月4日(日) 和歌山県立博物館(和歌山市吹上1-4-14, 073-436-8760)

県立博物館では、文化遺産課、県立文書館と連携して、地域に残る「災害の記憶」の発掘と文化遺産の所在確認調査をおこなっています。この調査では、文書や板、石碑などに「災害の記憶」を記して残そうとする先人たちの営みが明らかになりました。その成果の一部を紹介します。

同時開催 企画展「ふるさとからのおくりもの —新収蔵品展—」

●ホール展示「文化財を守る —和歌山市寂光院の襖絵—」

3月13日(火)～4月1日(日) 和歌山市立博物館(和歌山市湊本町3-2, 073-423-0003)

庫裏の解体に伴っておこなわれた文化財緊急調査によって明らかになった襖絵などを紹介します。この調査は、和歌山市内の博物館などで文化財を担当する専門職員が連携しておこないました。

ご来館いただいた方で、希望される方には、小冊子(『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅣ —命と文化遺産とを守るために—【新宮市・北山村】』)を無料でお渡しします。

